

JAPRS

JUN.2025 No.2
初夏号

目 次

令和7年JAPRS新年会	1
第25回スタジオ見学会 「ヒューマックスエンタテインメント / HAC STUDIO MA-4」	2
JAPRS技術セミナー 『アナログディスク制作勉強会～必要な知識・技術情報について～』	6
「MUSIC AWARDS JAPAN」と日本音楽録音賞の連携について	9
会員動向	10
経済構造実態調査へのご協力をお願い	12

令和7年 JAPRS 新年会

1月23日（木）、令和7年JAPRS新年会がパトール東京1F「メイン会場」にて100名を超える多くの参加をいただき開催されました。

18：30 総務委員会・萩原氏（稲葉建設）の司会により開宴となり、最初に高橋会長から新年の挨拶が述べられました。



経済産業省
商務・サービスグループ
文化創造産業課 課長補佐
腰田 将也氏

続いてご来賓の方々を代表し、経済産業省 商務・サービスグループ文化創造産業課 課長補佐 腰田 将也氏からご挨拶をいただきました。

続いて乾杯となり、関連団体を代表して日本プロ音楽録音賞の共催等ご協力をいただいている一般社団法人日本レコード協会 理事・事務局長 須貝あゆみ氏によりご挨拶、そして乾杯のご発声が行われ、歓談の時間となりました。



高橋会長の挨拶



一般社団法人日本レコード協会
理事・事務局長 須貝あゆみ氏

20:05 中メの時間となり、中村総務委員長挨拶の後、
20：20 JAPRS 新年会は無事に終了となりました。



中村総務委員長

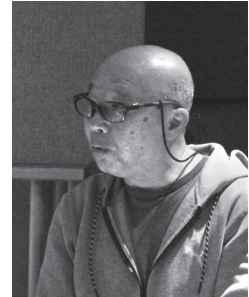


第 25 回スタジオ見学会 「ヒューマックスエンタテインメント / HAC STUDIO MA-4」

2025 年 2 月 22 日（土）、JAPRS 賛助委員会と AES 日本支部共催による第 25 回スタジオ見学会「ヒューマックスエンタテインメント / HAC STUDIO MA-4」を開催しました。

2024 年 9 月 9 日にリニューアルオープンした HAC STUDIO MA-4 スタジオは、Dolby Atmos コンテンツの制作に対応し、音楽パッケージやゲームプロジェクトなど、数多くの Dolby Atmos コンテンツの制作を手掛けており、9.1.4ch を採用したことで、Dolby Atmos フォーマットの映画プリミックスにも対応可能となりました。

この見学会では、AES 日本支部 染谷 和孝氏の進行により、スタジオリニューアルに向けたコンセプト及び導入設備等について、携われた下記 4 名の登壇者の方々から説明をいただきました。



AES 日本支部 染谷 和孝氏

「株式会社ヒューマックスエンタテインメント

HAC STUDIO MA-4 Dolby Atmos HOME のリニューアルについて」

嶋田 美穂 氏	株式会社ヒューマックスエンタテインメント
井上 聡 氏	オンズ株式会社 / 東京工科大学
重富 千佳子 氏	日本音響エンジニアリング株式会社
上岡 慎一 氏	株式会社ソナ

「リニューアルコンセプト」

最初に MA-4 のリニューアルコンセプトについて、株式会社ヒューマックスエンタテインメント リレコーディングミキサー 嶋田氏から説明がされました。

MA-4 は 2019 年にミュージック RL901K をメインとしたステレオのスタジオとして、オンズ（株）と日本音響エンジニアリング（株）の施工によりオープン、そして 2021 年に 8K 編集室・VFX・Dolby Atmos 対応の HAC SHIBUYA が MA-4 と同様にオンズ（株）と日本音響エンジニアリング（株）の施工によりオープン、双方とも最終モニター調整は（株）ソナが行われていることです。この渋谷のスタジオが 2024 年 3 月にクローズすることとなり、Dolby Atmos の機能を今回ステレオ仕様であった新宿の MA-4 へ移設することとなり、双方のスタジオ施工と同じ布陣でリニューアルの計画を進めたとのことでした。



(株) ヒューマックス
エンタテインメント
嶋田 美穂氏

移設のポイントは「渋谷から機材を移設」「ステレオ対応であった MA-4 を Dolby Atmos HOME (9.1.4ch) に改装」「システム構成を渋谷と出来る限り同じにしたい」と言うことでした。渋谷のスタジオに比べて新宿の MA-4 はスペースも狭くなるのですが、メインテーマとして「渋谷スタジオ機能の完全移設」で、聴感も出来る限り同じイメージを目指したと言うことでした。

それに向けて音響設計施工を担当された日本音響エンジニアリング（株）の重富氏には、“壁の配置変更はなし”、“既存のマシンルームに機材・システムを納める”、“Dolby Atmos HOME の環境を引き継ぐ”そして“スピーカーとスクリーンの位置関係を渋谷の比率に保ちたい”と言う要望を出されたそうです。

また、低い天井高に如何にトップスピーカーを配置するのか、マルチチャンネル以外の案件にも対応するための動線の確保（バックサラウンドスピーカーの取り回し等）も合わせてリクエストをしたとのことでした。

ここで渋谷スタジオでのデジタルプロセッサーを使用しない建築音響上の f 特とリニューアルされた MA-4 の建築調整後の f 特のグラフが示されましたが、ほぼ誤差がなく見事に再現されていました。

続いてオンズ（株）の井上氏へシステムに関する要望として、まずは“渋谷の機材を活用するためのシステム再構築（Pro Tools の 2 台構成など）”、“Avid S6 も同じ構成で使用しシステムワークフローも大きな変更は行わない”、“移設する機材やケーブル量も 2 倍以上となるが既存のマシンルームスペースで納めたい”、“モニター調整は Datasat を軸として使用するの”、3 社のハブ的役割を担って欲しい”、“PMC モニターの特徴を生かした Dirac によるオート音場補正周波数帯域をどのように設定するのか”等がリクエストされたとのことでした。

また、（株）ソナの上岡氏には Atmos HOME 環境モニター調整に関して、“各スピーカーのつながりの向上”、“スクリーンバック設置センタースピーカーの声の張り出しと艶感の維持”を要望として出されたとのことでした。ちなみに（株）ソナ社とは建築音響面での依頼は今まで行っていないとのこと、建築音響を行っている日本音響エンジニアリング（株）とのコラボレーションがとても興味深い点でもありました。

以上、3 社への要望が説明され、各担当者への説明に引き継がれました。

「内装・スピーカーレイアウト設計」

建築音響のリニューアルについて日本音響エンジニアリング（株）の重富氏から説明がされました。

移設前の渋谷のスタジオではサークルが 2.8m であったが、新宿 MA-4 では 2.4 m までサイズダウン、それに伴いスクリーンサイズも小さくなっているとのことでした。

「コンパクトな渋谷を MA-4 に再現する」と言うのがテーマ、そして裏テーマとして以前のスタジオにおける反省点を生かしつつ、今できるベストな Atmos スタジオを作るということを掲げていたそうです。

スピーカーレイアウト（9.1.4ch）

Front L/R 30°、Wide L/R 45°、Side SR 105°、Rear SR 150°

天井 Front 45°、Rear 135° 仰角 46.6°

渋谷のスタジオでは人の動線確保の問題もありチャンネル間での距離差があったが、リニューアルされる MA-4 ではサークルは小さくなったが、チャンネル間の距離差を出来るだけ少なくする方針とし、平面的な角度の配置は渋谷を出来るだけ踏襲する形を取ったとのことでした。

スクリーンとフロントスピーカーの位置関係については渋谷と揃えたいとの要望があり、渋谷のスクリーン移設や昇降式等含め検討したが、最終的には渋谷のスクリーンの生地を流用して 80 インチへとサイズダウンしたスクリーンを製作し導入したそうです。

このスタジオではステレオ作業もあることから、LR は 30° 配置としてスクリーン外側への配置とし、ハードセンターはスクリーンバックとなるので、出来る限りスクリーンに



日本音響
エンジニアリング（株）
重富 千佳子氏



天井設置のスピーカー

近付ける配置としたとのことでした。

また、梁の位置関係等の問題から天井高には制限があったが、既設天井を壊さずに少しでも高い位置に設置出来るように工夫、更に設置金具も特注しビリツキ対策にも配慮されたとのことでした。

天井にスピーカーを設置する場合は課題が多く、空調吹き出し口の移動や照明の配灯調整にも気を配らなくてはならず、今回も一旦仕上げをめぐって調整を行ったとのことでした。それに伴いダクトを延伸する工事が一番大変だったとのことでした。

Atmos 対応スタジオでいつも悩ましいのはリアスピーカーと人の動線との干渉で、今回も後方扉とクライアント席に配慮しつつ調整を行ったとのことでした。



フロントとワイドスピーカー

「システム設計・施工」

続いてシステム設計・施工について、オンズ(株)井上氏から説明がされました。

通常はスペース・伝容量含めて事前に計画された上で機材設置やワイヤリングを行うのであるが、今回は渋谷の広いスペースに設置されていたものを狭い既存のマシンルームスペースに納めることが大きな課題の一つであったとのことでした。



リアスピーカーとクライアント席

MA-4に納められていた3倍の機材量およびケーブル量とラックの奥行の違い、更に電源容量も半減しているとのことで、それらの問題を徹底的に図面検討とシミュレーションを行い1つずつ潰して行き、移設に向けた準備を進めたとのことでした。

また、電源容量についてはメーカースペックによるものではなく、実際に大音量で鳴らした状態での消費電力を1つ1つ計測した上で、必要な容量計算を行ったとのことでした。



オンズ(株) 井上 聡氏

ワイヤリング工事においては、渋谷および新宿の既設ケーブルを流用する案もあったが、ケーブル径や施工上のリスク含めて検討した結果、全て新たなケーブルを作り直しての対応となったとのことでした。それでも施工当初はピットが上手く閉まらなかったとのことですが、調整の上現在はしっかりと納まっていました。

音響調整について3社がどのようなスケジュールで進めて行ったか等の説明がされましたが、建築音響と電気音響調整の橋渡しについて、(株)ヒューマックスエンタテインメント 嶋田氏の説明にあった通り井上氏が行い、“建築音響での調整”、“電気音響での調整”の分岐点をクライアントに理解してもらいながら進めたとのこと、この役割を担う人がいることが、調整作業を迷走させないためには必要だと実感させられました。

また、オートアライメント系で周波数特性や位相特性を調整することは可能であるが、そこを最優先するのではなく、インパルス応答がきちんと決まることが重要で、それを改善することで、“周波数特性/位相特性/タイムアライメント”も確度が高く合わせられると井上氏は説明されていました。

続いて、システムフローや構成についての説明がされ、移設前の渋谷のスタジオではPro Tools 3台でのシステムが構成されていたが、MA-4では2台構成で“渋谷の完全移設”を実現しているとの説明されました。ちなみにオーバー 800ch のバスが稼働しているとのことでした。

「モニター調整」

続いてモニター調整関連について、(株)ソナ 上岡氏から説明がされました。

テーマは、“安心して制作できる環境構築を作り、より良いミックスが仕上げられること”を柱として、「正確で一貫性のあるモニター環境の提供」とのことでした。

スタジオは複数のエンジニアが作業する場となるので、それまで別のスタジオで仕込まれて来たものが“正確に反映できる環境が作品作りには必要”と言うことを考え、モニター調整に取り組まれたとのことでした。

オンズ(株)井上氏の話でもあったように、建築的アプローチと電氣的アプローチを上手く組み合わせてモニター環境調整を行われたとのことでした。

要望として上げられていた“各スピーカーのつながり”、“スクリーンバックとなるセンタースピーカーの声の張り出しや艶をキープ”については、Dolby Atmosに限らずマルチチャンネルでは対応が難しいポイントではあるが、その調整には電氣的な補助が有用と話されていました。

MA-4のようなサイズ感では、実際に聞いている音の波長よりも小さい空間環境となり、その中に複数のスピーカーを設置しそれぞれのレスポンスを揃えることやLFEチャンネルの位相問題等は室内音響的にはハードルが高く、マルチチャンネル調整の難しさとなるとのことでした。

今回は要望に応えるために Datasat AP25 を使用して調整し、確認測定→試聴／意見交換、そして更に微調整を繰り返し行ったとのことでした。

音圧レベルについてはオールパスレベルを確認するケースが多いが、帯域別のレベル確認が大切で、これを行うことで作品を別のスタジオに持っていった時の音量感や音圧感が揃い易くなるとのことでした。(リアルタイムアナライザーを用いた $1/3\text{oct. band levels}$)

タイムアライメントについては、Datasat でインパルス応答の測定を行い調整しているが、更に複数のスピーカーからピンクノイズを出して位相干渉(コムフィルター現象)を確認しながら調整も行っているとのことでした。

センターチャンネルに対する要望への対応については、周波数特性を確認しながら、声の張り出しに関わるポイントを調整し、フラットに近い特性を保ちつつ、最終的にPMCモニターらしさを含めて検討を行い決定したとのことでした。

最後に、上岡氏が「性格で一貫性のあるモニター環境の提供」ということを最初に話されていたが、様々なスタジオで作品を試聴した印象などについて、モニター調整に携わる者として、エンジニア等からのフィードバックが是非欲しいとのことでした。

リニューアルに関わられた4名の方々の説明が終了し、嶋田氏が関わられた作品の試聴へと進み、その後質疑応答の後に見学会は終了となりました。

リニューアルに向けた要望点、それに向けた対策と結果が分かりやすく説明がされた、大変有意義な見学会となりました。

見学会にご協力いただきました株式会社ヒューマックスエンタテインメントの皆様、見学会を共催いただきましたAES日本支部の皆様、貴重なお時間をありがとうございました。



(株)ソナ 上岡 慎一氏



見学会の様子

JAPRS 技術セミナー 『アナログディスク制作勉強会～ 必要な知識・技術情報について～』

技術委員会では、制作数が増え続けているアナログ盤の品質向上に向け、パネリストに4名のカッティングエンジニアを迎えた対談方式にて、JAPRS 技術セミナー「アナログディスク制作勉強会～必要な知識・技術情報について～」を ZOOM ウェビナーにて開催いたしました。

この技術セミナーは、エンジニアの方々だけではなく制作に関わる多くの方々に向けて、ミキシングにおける注意点や納品フォーマットに関する問題など、アナログ盤制作へのご理解を深めていただくことをテーマとし、事前に寄せられた質問項目（次頁に記載）を中心に提起しパネリストに回答いただく形で進行了しました。

セミナー当日のウェビナー参加者は63名、内容は YouTube でアーカイブ配信を行っておりますので、アナログディスク制作をされる方々には是非ご覧いただければと思います。（この項の最後に URL を記しています。）

日 時 : 令和7年3月22日（土）15:00～16:40

※ZOOM ウェビナー開催

司会進行 : 冬木 真吾氏 / 日本コロムビア株式会社 スタジオ技術部

パネリスト: 北村 勝敏氏 / 株式会社ミキサーズラボ

ワーナーミュージック・マスタリング

加藤 拓也氏 /

〃

田林 正弘氏 / 日本コロムビア株式会社 スタジオ技術部

堀内 寿哉氏 / 株式会社ソニー・ミュージックソリューションズ

パッケージソリューションカンパニー

ソニー・ミュージックスタジオ マスタリングルーム



セミナー配信風景 @ピクタースタジオ 104

「アナログディスク制作勉強会」 ～必要な知識・技術情報について～



北村勝敏氏

加藤拓也氏

田林正弘氏

堀内寿哉氏

司会進行 冬木真吾氏

「パネリストに回答いただいた質問事項」

1. デジタルマスターを持ち込んで、ラッカー盤カッティングをお願いする時にどのようなフォーマットの音源が作業的にも音質的にも BEST なのでしょうか。
2. ラッカー盤カッティング時に持込む音源として、子音成分は出来るだけミックス時に処理する事は MUST でしょうか。(配信・CD ではあまり気にしない)
 - * 子音成分はカッティング時に何が一番問題になるのでしょうか。
 - * 中高域成分にピークを持つサウンドのカッティング時の問題。
3. 楽曲のアレンジで、ベース・キックなど低域を特に強調する音源をカッティングする時に低域処理に対して、ミックス時に気を付ける事は何でしょうか。
 - * 低域成分の溝幅への影響はどんな事が問題になるのでしょうか。
4. 昔はアナログテープ持込みでの半速カッティングなど、お願いした事も有りますが半速カッティング様なイコライザーは現状開発されているのでしょうか。
5. 持込みマスター音源がトータルコンプの掛け過ぎで、ほとんどダイナミックレンジの無い音源は、レベルの小さいレコードになってしまうのでしょうか、それともカッティング時に何か対応出来るのでしょうか。
 - * どのような音質の音源持込みが、一番カッティングに影響するのでしょうか。
6. ラッカー盤カッティングにおいて内周でのカッティングでのリスクなど教えて下さい。
7. ラッカー盤カッティングにおいて、ゴースト対策としてどのような事を行っているのでしょうか。ゴーストは QC 的に大きな問題になる事があるのでしょうか。
8. 45 回転及び 33 回転 LP の適正な収録時間を教えて下さい。又、33 回転 LP で入れようと思えば何分位まで、カッティングは可能でしょうか。(ポップス、クラシック)
9. 例えば DSD11.2MHz/1bit マスター音源及び PCM384kHz/24bit を持ち込んだ時、完成したレコードはハイレゾ音源ならではの良さ(音色・ダイナミックレンジ・透明感)は表現されるのでしょうか。ハイレゾ音源持込みに対し、カッティング側からの視点でのメリット&デメリットなど、教えて頂けますでしょうか。
10. アナログテープ(ハーフインチ)で持ち込む時に、先行ヘッド信号が無い TR 再生してカッティングして頂きますが、その時に先行ヘッド信号についてはポン出しのデジタル音源でも、それなりに使えるものなのでしょうか。
 - * ハーフインチ TR 等に先行ヘッドを取り付ける(改造)は現実出来るのでしょうか。
11. ダイレクトカット録音の時に逆相成分があり、溝切れ・針飛びなどを起こすので、このテイクは使えない事になり、録音現場でステレオ定位の楽器の Pan を少し内側にして下さいとのアドバイスを頂き、難を逃れた事があるのですが、既にミックスされた音源で逆相成分がある音源に対して、カッティング作業で出来る事はどんな事でしょうか。
12. カッティングその物では無いのですが、マスタースタンパーでのレコードの音質は素晴らしいと感じますが、高音質レコードを制作する為にはマスタースタンパーは MUST でしょうか。
 - * 工場でのリスクも多く、痛い目にあったことも有りまして。
13. テストカットでのラッカー盤試聴で、各社どのようなシステムで確認試聴されているのでしょうか。
 - * ラッカー盤の QC ポイントを教えてください。
 - * カートリッジの種類で再生音が異なりますが、それぞれのカートリッジの音色 特徴など参考に教えてください。
14. 最近は色々なカラーレコードが制作されていますが、通常レコード盤を基準にしてカラーレコード盤は、音質的にどんな感じでしょうか。

15. カッティングマシンでどの機器が一番音質に影響するのでしょうか。
(カッティング針の種類、カッティングアンプ、カッティングコンソール・・・)

※ 以上の質問項目への回答は下記 YouTube アーカイブ配信で確認いただけます。



JAPRS 技術セミナー アーカイブ YouTube 配信
【「アナログディスク制作勉強会」～必要な知識・技術情報について～】 <https://youtu.be/J-amciOLVww>

最後に、ご登壇いただきました4名のパネリストの方々、司会進行の冬木様そして配信会場をご提供いただきましたビクターエンタテインメント（株）ビクタースタジオ様、ご協力いただき誠にありがとうございました。

「MUSIC AWARDS JAPAN」と日本音楽録音賞の連携について

音楽業界の主要5団体（日本レコード協会、日本音楽事業者協会、日本音楽制作者連盟、日本音楽出版社協会、コンサートプロモーターズ協会）が設立した、一般社団法人カルチャーアンドエンタテインメント産業振興会（CEIPA）による国際音楽賞「MUSIC AWARDS JAPAN（以下MAJ）」が開催されますが、日本プロ音楽録音賞と連携した「グランプリエンジニア賞 in Association with PMRAJ」がアライアンスカテゴリーとして設立され顕彰されることとなりました。※PMRAJ：Professional Music Recording Award Japan（日本プロ音楽録音賞）



このMAJを通じて、日本プロ音楽録音賞を広く周知して行きます。

2025年につきましては、第30回日本プロ音楽録音賞「Best Master Sound 部門」「Immersive 部門」「アナログディスク部門」で最優秀賞を受賞した5作品がノミネートされ、5月21日（水）にロームシアター京都で開催される授賞式で、その中からさらに絞り込まれた1作品が「グランプリエンジニア賞」として発表されます。

エントリー作品は下記の通りです。

- [Best Master Sound 部門 クラシック、ジャズ、フュージョン]
「マーラー：交響曲第5番」より「マーラー：交響曲第5番より第2楽章」
アンドレア・パッティストーニ指揮 / 東京フィルハーモニー交響楽団
塩澤 利安（ミキシング・エンジニア） / 佐藤 洋（マスタリング・エンジニア）
- [Best Master Sound 部門 ポップス、歌謡曲]
「Sweetest Tune」 / Travis Japan
酒井 秀和（マスタリング・エンジニア） / 松橋 秀幸（ミキシング・エンジニア）
- [Immersive 部門（プログラミング・サウンド）]
「天球の音楽 ミュージック・オブ・ザ・スフィア イマーシブ・クラシック」より
「メタモルフォシス I～2台のピアノのための～」
/ 長谷川慶岳（作曲）、後藤由香里（ピアノ）
鈴木 浩二（ミキシング・エンジニア）
- [Immersive 部門（アコースティック・サウンド）]
「スキマスイッチ「Anniversary EP」」より
「ボクノート ～ for 20th Anniversary with Orchestra ～」 / スキマスイッチ
甲斐 俊郎（ミキシング・エンジニア）
- [アナログディスク部門]
「MIXER'S LAB SOUND SERIES Vol.4」より「小さな花」 / 角田健一ビッグバンド
内沼 映二（ミキシング・エンジニア） / 北村 勝敏（カッティング・エンジニア）

会 員 動 向

1. 会員数（令和7年6月1日現在）

正会員（法人）	20 法人	準会員	2 法人
正会員（個人）	13 人		
賛助会員Ⅰ	42 法人	賛助会員Ⅱ	2 法人

2. 入会

①法人正会員

②個人正会員

③賛助会員

3. 退会

①個人正会員

菅井 雄作

3月31日付

4. 法人・会員代表者および住所変更、その他

①法人正会員

○会員代表者変更

株式会社フリーマーケット

（旧）坂口 和代

（新）菅原 恭史

②賛助会員Ⅰ

○組織変更（事業譲渡に伴い社名、法人代表者、住所変更）

（旧）タックシステム株式会社

法人代表者：山崎 淳

住所：〒141-0001 東京都品川区北品川 5-9-11 大崎 MT ビル 11F

（新）株式会社レスター

法人代表者：今野 邦廣（代表取締役会長兼社長）

住所：〒108-0075 東京都港区港南二丁目 10 番 9 号 レスタービルディング

○学校名変更

学校法人経専学園

（旧）経専音楽放送芸術専門学校

（新）札幌ミュージック＆エンターテインメント専門学校

○会員代表者変更

学校法人イーエスピー学園 専門学校 ESP エンタテインメント東京

(旧) 物井 謙行

(新) 横堀 耕祐

○会員代表者変更

学校法人 21 世紀アカデメイア 専門学校大阪ビジュアルアーツ・アカデミー

(旧) 酒葉 明大

(新) 三丸 聡

○会員代表者変更

学校法人片柳学園 日本工学院専門学校

(旧) 我妻 拓

(新) 蓑輪 直子

5. その他

○代表取締役社長変更

有限会社レコード特信出版社

(旧) 梶浦 秀博 (代表取締役会長)

(新) 梶浦 真幸

経済構造実態調査へのご協力のお願い

総務省・経済産業省では、令和7年6月に全ての事業所・企業や団体を対象とした「経済構造実態調査」を実施いたします。

この調査は、全ての産業の付加価値等の構造とその変化を明らかにし、国民経済計算（GDP 統計）の精度向上を資するために、統計法（平成19年法律第53号）に基づき実施する国の重要な統計調査（基幹統計調査）であり、報告義務のある調査として実施します。（5年ごとに実施する「経済センサス-活動調査」の中間年の実態を把握することを目的とした調査です。）

ご回答いただいた調査内容は統計法に基づき、厳重に保護されます。

調査をお願いする企業・事業所や団体の皆さまには、国が調査を委託した事業者から、調査書類を5月から順次郵送いたしますので、インターネットにて、ご回答をお願いいたします。（郵送での回答も可能です。）

なお、今回の調査については、統計法第27条に基づく「事業所・企業照会を同時一体的に実施いたします。対象となる場合は併せてよろしくお願いいたします。



詳しくは、以下の URL から経済構造実態調査のホームページをご覧ください。

<https://www.stat.go.jp/data/kkj/index.html>



【主な目的】

国民経済計算の精度向上 / より正確な景気判断や効果的な行政施策の立案 / 企業の経営判断

【調査対象・事項】

製造業及びサービス産業に属する一定規模以上の全ての法人企業（甲調査）、特定のサービス産業に属する企業及び事業所（乙調査）が対象です。

甲調査：（対象）個人経営の企業及び農林水産業、建設業等、一部の産業に属する企業を除く全ての産業分野の企業

（事項）経営組織／資本金／企業全体の売上及び費用の金額／主な事業の内容／事業活動の内容および事業活動別売上金額など

乙調査：（対象）特定のサービス業に属する無作為抽出により選定された企業・事業所

（事項）事業の形態／売上金額／会員数／年間契約件数／入場者数／従業員数など

♪ 編 集 後 記 ♪

今年も早いもので凡そ半分終わりましたね。
毎日バタバタしているとあっという間に時間が過ぎ去ります。今年は春に桜をたくさん見ました。
都内も何か所か回りましたが、お勧めは六本木スペイン坂です。赤坂アークヒルズから麻布台ヒルズまでお散歩するととても良いですよ。是非！

Ryu1.N

新しい事務所に移転して9ヵ月が過ぎようとしていますが、桜の名所が近所にあたり色んな発見が沢山あります。既に古い事務所の記憶や感覚も無くなって来ていますが、これは今が快適に過ごせているってことですね、きっと。

Pesonai

天気予報は正確で細かい情報が得られるようになってきましたが、毎朝着る服を迷ってバタバタするのは変わりません。長期予報では今年の夏も平年より暑くなるようですが、平年て何？と思ったり・・・。

mm

***** 総 務 委 員 会 *****

委員長 中村 隆一（ミキサーズラボ）

委員 内藤 重利（事務局）

” 伊東 真奈美（ ” ）

【発行人】 会 長 高 橋 邦 明 【発 行】 2025 年（令和 7 年）6 月

【発行所】 一般社団法人 日本音楽スタジオ協会

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 565-10 ビルデンスナイキ 302

TEL. 03-3200-3650 FAX. 03-3200-3660

<https://www.japrs.or.jp> E-mail:japrs@japrs.or.jp

【編 集】 総 務 委 員 会

【印刷所】 株式会社研恒社



JAPRS

Japan Association of Professional Recording Studios

<https://www.japrs.or.jp> E-mail: japrs@japrs.or.jp